



魔女に攫われて

基本CG13枚

「ようやくお目覚めかしら?」
「...どういうつもりだ魔女め...」

目が覚めると知らない場所にいた...
そして体が動かない
どうやら俺は目の前の魔女に攫われたらしい...



「一体俺に何をする気だこの魔女が…」
「ふふっそんな喧嘩腰にならなくてもいいじゃない♪」
「ふざけるな！人を攫っておいて！」



「別に危害を加えようってわけじゃないのよ
ただ少し手伝ってほしいことがあるから来てもらっただけよ」
「…誰が魔女の手伝いなどするか！」



「まあまあそんなこと言わないで♪
お薬を作るのに必要は材料を分けて欲しいだけよ♪」
「…そんなことならわざわざ俺を攫う必要なんかないだろ！ 本当の目的はなんだ！」



「まあ普段ならそうなんだけどね
今回必要なのは若い男の精液なのよ♪
そこであなたに来てもらったわけ♪」
「せ、精液…?」
「そう♡ふふっいっぱい出して頂戴♡」



「ふふっ
お薬の影響で暫くは動けないんだから
全部私に委ねてくれればいいのよ♡」
「だ、誰が魔女に好き勝手されるものか！」





「口ではそういう癖にっちは素直ねえ...」
「うんうんさー」
「ふふっ全部私に任せてくれればいいの♡」

グ
グ
グ



「ほらほら気持ち良いでしょ？」

「うっ！そ、そんなに胸を押し付けるな！」

「素直になればいいのに」

「最初に言ったでしょ危害を加える気はないって」



「どうヌルヌルして気持ちいいでしょ？」
「ま、魔女の睡なんかかけるな！
汚らしい！」



「ふふ」
まだ素直にならないうちはないのね
いいわ、もっともっと気持ちよ〜くしてあげる♡」

「これはどう？」

「さっきより気持ちいいでしょ？」

「き、気持ちよくなんか…」



「こんなにビクビクしておいて説得力ないわねえ
素直になりなさいよ気持ちよくなりたいでしょ」

「どうせしばらくは体は動かないんだから
全部私に委ねるだけでいいのよ」



「ふざけたことを言うなこの魔女が！
ぜ、絶対俺は屈したりしないぞ！」

「大袈裟ねえ……ただ気持ちよくしてあげるだけなのに
口では強気なこと言ってももう出そうなんですよ？」



「うっ…あぁっ!」

「ホラあでたぁ♡」



「ハイッまず一発アリガトウ♡
でもまだまだ出してもらうわよ」

「ク、クソ…
こんな魔女なんか…」



ド
ク
...

「魔女でもなんでもいいじゃない
気持ちよくなりたいでしょ？」
「…うるさい！」
「…いくら強気なこと言っても下半身
は素直ねえ」



「ふふっカワイイ♡
素直になれず我慢してる感じが
たまらないわぁ♡」



「ほらほらまた出そうなんですよ？
何も我慢せず好きなだけ出して
いいのよ？」
「ク、クソ！こ、この魔女が！うっ！」





「ふう…ふう…」
「はあいよくできました♡
でも私もあなたの下半身も
まだ全然満足してないわねえ」



「2発程度だとまだまだ元気ねえ
若いって素敵だわぁ♡
ふふっ好きなだけわっばい吸って
まだまだ出して頂戴♡」



(く、苦...)
「どうも、気持ちいいでしょ♡」

ん、ん



「こんなにビクビクしちゃって
カワイイわぁ♡
ホラ早く出しちゃいなさいよ♡」



ビク

しゃっ

しゃっ



「ふふっこんなに曲してくれて
嬉しいわぁ♡
でもまだまだ足りないわよ」





「い、これだけ出してもまだ足りないと言っのかー
も、もう無理だー」
「これで限界だなんて情けないわねえ」

「ほらほら早く勃たせなさい♡
まだ精液は全然足りないんだから♡」





「うっ...はあ...はあ...」
「ふふまた元気にあつてきたようね♡」





「我慢汁出しちゃって♡
これならまだまだイケそうね♡」
「も、もう勘弁してくれ…」

トッ
トッ
トッ

「しっかり勃ったわね♡」
そろそろ私も気持ちよくな
りたくなってきたわぁ♡」
(息が出来ない…)





「ふふっ
しっかり気持ちよくしてくれないと
どいてあげないわよ♥
窒息したくなかったらしっかり舐めてね♥」



「こんなに我慢汁出しちゃって…
ふふっ、そうそうしっかり
なめてちょうだい♡」



(うっ…ふうふう…)
「そうそう気持ちいいわぁ♥
そろそろいいかしらね♥」

ド
ロ
オ
ッ

ぐ
っ



「はぁ...はぁ...
そろそろ挿れちゃうわよ♡」
「や、止める！ 魔女相手にそんな...」



「そんなこと言ってももう
挿入っちゃったわよ♡
ほらほら動いちゃうわよ♡」
「や、やめる!」



「こんなにガチガチにして
本当に口と下半身が一致しないわねえ」
「うっ……くっ……」

「ふふふ
もう出るんですよ
いいわよ出して頂戴♡」





「よしよい子♡
たくさん出たわね♡」

「も、もう満足したたる…
早く解放しろ…」



「何をいってるのかしら
まだ満足したなんて言っていないわよ
まだまだ出るでしょ♡」



「も、もう本当に無理なんだ！
勘弁してくれ！」





「そう言いながらまた硬くなってるじゃない
どうしようもない嘘つきねえ」

「も、もう出ないって！
す、擦り切れる…！」



「これだけ固くなればもう十分ね♡
ほらほら頑張って
まだまだ出してもらわないと困るんだから♡」



もう無理だわー

本当に嘘ばかり
お仕置きが必要ねえ♡



「ほら挿入れちゃうわよ
頑張りなさい♡」
「うう...」



「こんなに固くしちゃって...
やっぱりまだまだ出来るじゃない
嘘つきねえ」





「う……う……」
「ふふっ苦しそうねえ……
でも気持ちいんどしょ♡」

ズィ

ズィ



「ほら上に乗ってあげるからじっくりしなさい」
「うう本当にもう出ないって…」



「まだそんなことを言うの？
情けないわねえ」
「うっ…」



「んっ…はぁはぁ…」
 「おやうなさん、はぁはぁはぁ」
 曲しちゃいなよ♡

ズン
 ズン

[illegible]

「んっ…はぁはぁ…」
 「おやうなさん、はぁはぁはぁ」
 曲しちゃいなよ♡♥

ズン
 ズン



「うー…」

「はあいお疲れ様あ♡

ふふっこれだけ出してもらえれば十分だわ
そろそろ体も動くんじゃない？」





「この魔女め！」

今まで散々好き勝手
しやがって！」

「あら、積極的ねえ」



「くっ...ふっ...」
「ほらほら自分からしてきてるん
だからしっかりしなさい♡」

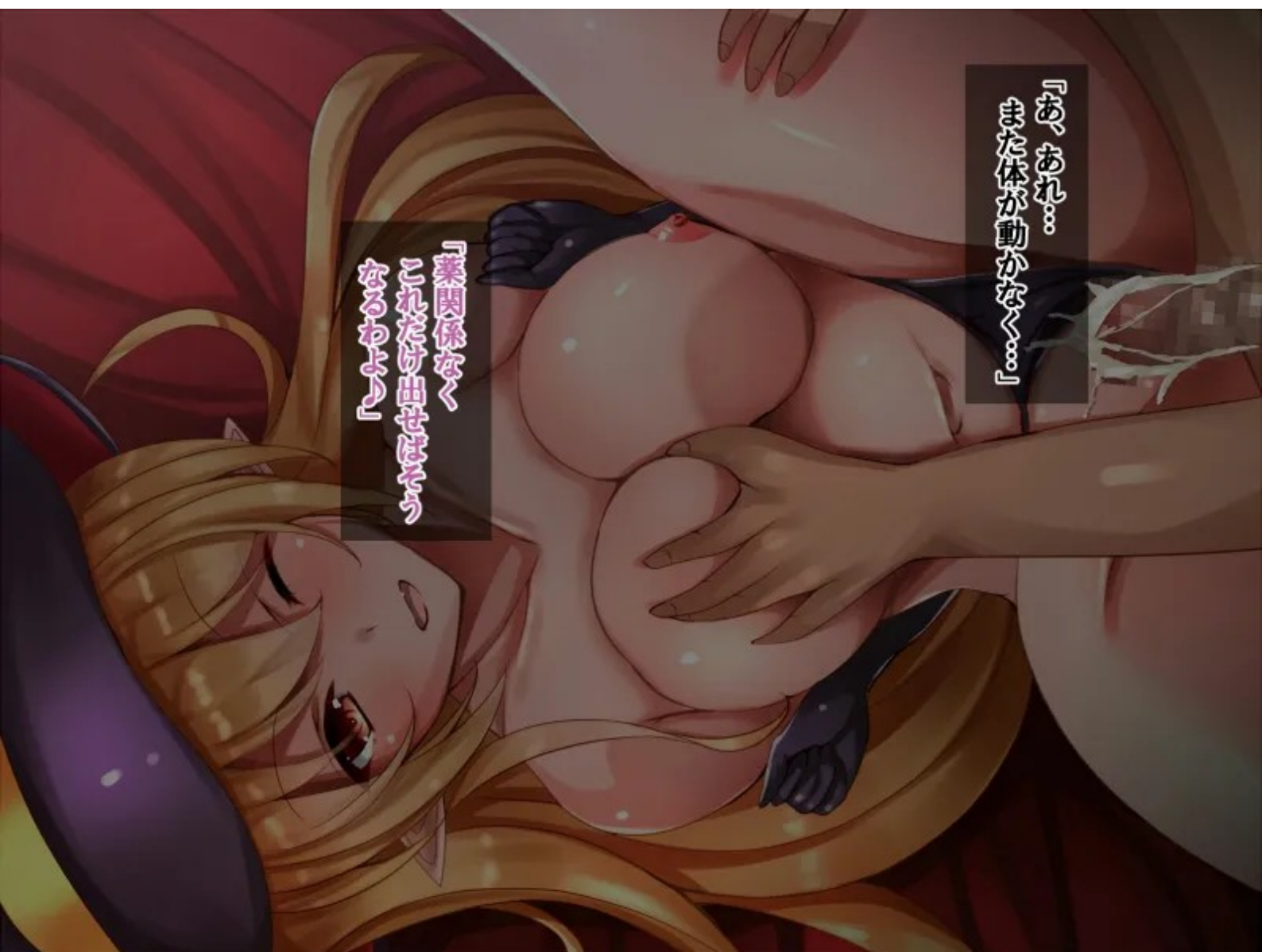


「ク、クソ…
出してやる！出してやるからな！」



「あ、あれ…
また体が動かなく…」

「薬関係なく
これだけ出せばそう
なるわよ」





「はぁ...はぁ...
これだけあれば十分ね
協力してくれてアリガトウ♡」
「これで十分なら早く解放しろ！」

ドゥオ

はぁ

ドゥオ
はぁ

「...
「一体何を言っているのかしら...」
「えい...」



「材料が揃ったんだから次は
完成したお薬も実験対象が必要でしょ？」

「そ、それは…」

「ふふっ、凄く良く、効く、お薬らしいから楽しみだわぁ♡」

















































































































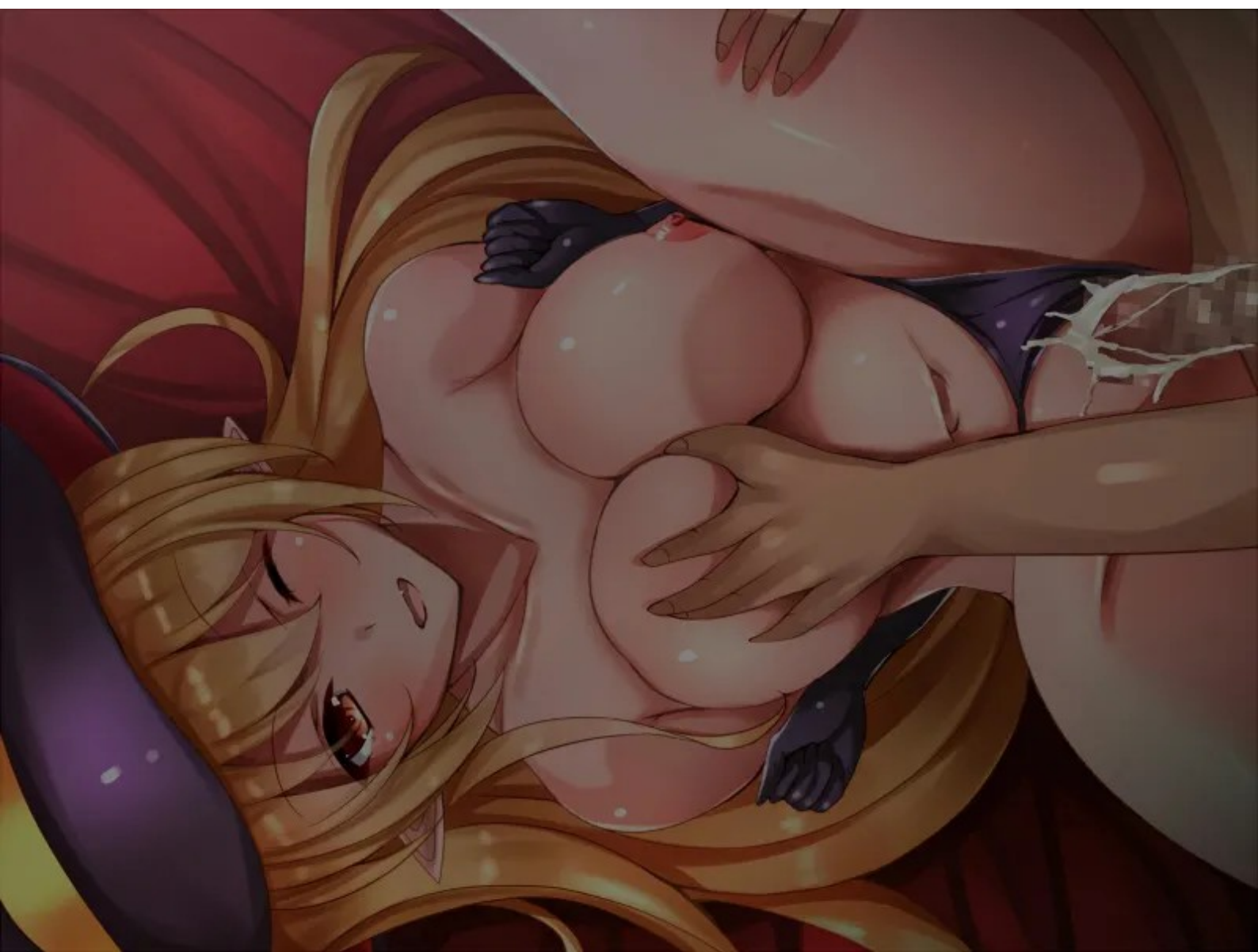




















「ようやくお目覚めかしら?」
「...どういいうつもりだ魔女め...」

目が覚めると知らない場所にいた...
そして体が動かない
どうやら俺は目の前の魔女に攫われたらしい...



「一体俺に何をする気だこの魔女が…」
「ふふっそんな喧嘩腰にならなくてもいいじゃない♪」
「ふざけるな！人を攫っておいて！」



「別に危害を加えようってわけじゃないのよ
ただ少し手伝ってほしいことがあるから来てもらっただけよ」
「…誰が魔女の手伝いなどするか！」



「まあまあそんなこと言わないで♪
お薬を作るのに必要は材料を分けて欲しいだけよ♪」
「…そんなことならわざわざ俺を攫う必要なんかないだろ！ 本当の目的はなんだ！」



「まあ普段ならそうなんだけどね
今回必要なのは若い男の精液なのよ♪
そこであなたに来てもらったわけ♪」
「せ、精液…?」
「そう♡ふふっいっぱい出して頂戴♡」



「ふふっ
お薬の影響で暫くは動けないんだから
全部私に委ねてくれればいいのよ♡」
「だ、誰が魔女に好き勝手されるものか!」





「口ではそういう癖にっちは素直ねえ...」
「うん、うんさー」
「ふふっ全部私に任せてくれればいいの♡」

グ
グ
グ

「ほらほら気持ち良いでしょ？」
「うっ！そ、そんなに胸を押し付けるな！」
「素直になればいいのに」
「最初に言ったでしょ危害を加える気はないって」





「どうヌルヌルして気持ちいいでしょ？」
「ま、魔女の睡なんかかけるな！
汚らしい！」



「ふふっ
まだ素直になるつもりはないのね
いいわ、もっともっと気持ちよ〜してあげる♡」

「これはどう？」

「さっきより気持ちいいでしょ？」

「き、気持ちよくなんか…」



「こんなにビクビクしておいて説得力ないわねえ
素直になりなさいよ気持ちよくなりたいでしょ」

「どうせしばらくは体は動かないんだから
全部私に委ねるだけでいいのよ」



「ふざけたことを言うなこの魔女が！
ぜ、絶対俺は屈したりしないぞ！」

「大袈裟ねえ……ただ気持ちよくしてあげるだけなのに
口では強気なこと言ってももう出そうなんですよ？」





「うっ…あっ！」

「ホラあでたあ♡」

ん

んんん！

「ハイッまず一発アリガトウ♡
でもまだまだ出してもらうわよ」

「ク、クソ…
こんな魔女なんか…」



「魔女でもなんでもいいじゃない
気持ちよくなりたいでしょ？」
「…うるさい！」
「…いくら強気なことを言っても下半身
は素直ねえ」



「ふふっカワイイ♡
素直になれず我慢してる感じが
たまらないわぁ♡」



「ほらほらまた出そうなんですよ？
何も我慢せず好きなだけ出して
いいのよ？」
「ク、クソ！こ、この魔女が！うっ！」





「ふう…ふう…」
「はあいよくできました♡
でも私もあなたの下半身も
まだ全然満足してないわねえ」



ドロ

「2発程度だとまだまだ元気ねえ
若いって素敵だわぁ♡
ふふっ好きなだけわっばい吸って
まだまだ出して頂戴♡」



(くっ苦くら...)「どうも、気持ちいいでしょ♡」

んっ



「こんなにビクビクしちゃって
カワイイわぁ♡
ホラ早く出しちゃいなさいよ♡」



ビク

しゃっ

しゃっ



「ふふっこんなに曲してくれて
嬉しいわぁ♡
でもまだまだ足りないわよ」





「い、これだけ出してもまだ足りないと言っのかー
も、もう無理だー」
「これで限界だなんて情けないわねえ」

「ほらほら早く勃たせなさい♡
まだ精液は全然足りないんだから♡」





「うっ…はぁ…はぁ…」
「ふふまた元気を回復してきたようね♡」





「我慢汁出しちゃって♡
これならまだまだイケそうね♡」
「も、もう勘弁してくれ…」

トッ
トッ
トッ

「しっかり勃ったわね♥」
そろそろ私も気持ちよくな
りたくなってきたわぁ♥」
(息が出来ない…)





「ふふっ
しっかり気持ちよくしてくれないと
どいてあげないわよ♡
窒息したくなかったらしっかり舐めてね♡」

「こんなに我慢汁出しちゃって…
ふふっ、そうそうしっかり
なめてちょうだい♡」





(うっ…ふっふっ…)
『そうそう気持ちいいわぁ♡
そろそろいいかしらね♡』

ドクッ

ぐっ



「はぁ...はぁ...
そろそろ挿れちゃうわよ♡」
「や、止める！ 魔女相手にそんな...」



「そんなこと言ってももう
挿入っちゃったわよ♡
ほらほら動いちゃうわよ♡」
「や、やめる!」



「こんなにガチガチにして
本当に口と下半身が一致しないわねえ」
「うっ…くっ…」

「ふふふ
もう出るんですよ
いいわよ出して頂戴♡」





「よしよい子♡
たくさん出たわね♡」

「も、もう満足したたる…
早く解放しろ…」



「何をいってるのかしら
まだ満足したなんて言っていないわよ
まだまだ出るでしょ♡」



「も、もう本当に無理なんだ！
勘弁してくれ！」





「そう言いながらまた硬くなってるじゃない
どうしようもない嘘つきねえ」

ズン

ズン



「も、もう出ないって！
す、擦り切れる…！」

「これだけ固くなればもう十分ね♡
ほらほら頑張って
まだまだ出してもらわないと困るんだから♡」



もう無理だわー

本当に嘘ばかり
お仕置が必要ねえ♡



「ほら挿入れちゃうわよ
頑張りなさい♡」
「うう...」



「こんなに固くしちゃって...
やっぱりまだまだ出来るじゃない
嘘つきねえ」





「う……う……」
「ふふっ苦しそうねえ……
でも気持ちいいでしょ♡」

ズッ

ズッ



「ほら上に乗ってあげるからじっくりしなさい」
「うう本当にもう出ないって…」



「まだそんなことを言うの？
情けないわねえ」
「うう…」



「うっ…はははは…」
「曲ぞうなんてしほちほち
曲しちゃんなぞらよ♡」





「うー…」

「はあいお疲れ様あ♡

ふふっこれだけ出してもらえれば十分だわ
そろそろ体も動くんじゃない？」



ドオドオ



「この魔女め！

今まで散々好き勝手

しやがって！」

「あら、積極的ねえ」



「くっ……ふっ……」
「ほらほら自分からしてきてるん
だからしっかりしなさい♡」

はっ

はっ



「ク、クソ…
出してやる！出してやるからな！」

はっ♡

はっ♡

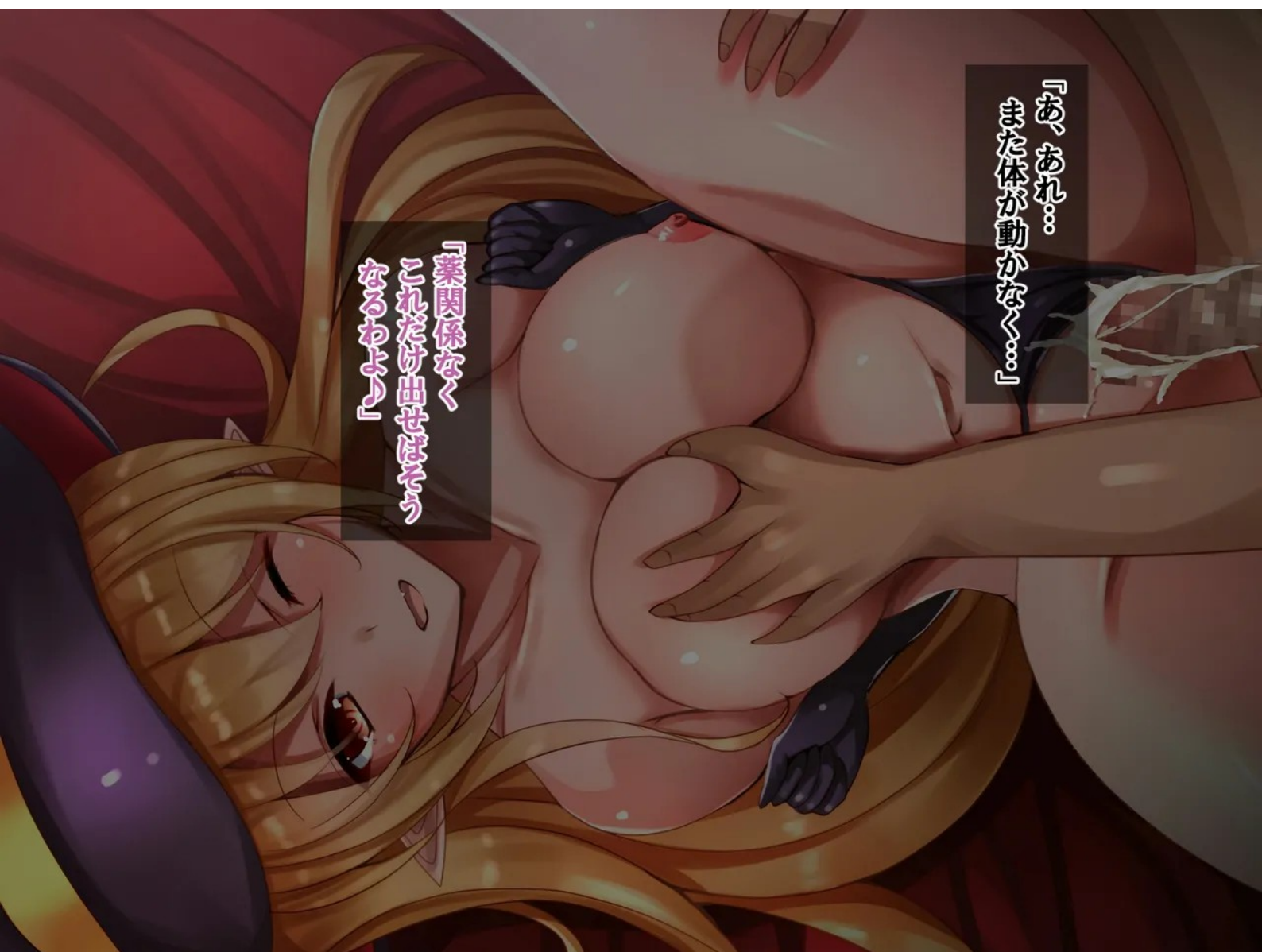
ずっ

ずっ



『あ、あれ…
また体が動かなく…』

『薬関係なく
これだけ出せばそう
なるわよ』





「はぁ...はぁ...
これだけあれば十分ね
協力してくれてアリガトウ♡」
「これで十分なら早く解放しろ！」

ドゥッ

はぁ

ドゥッ
はぁ

「...
「一体何を言っているのかしら...」
「えい...」



「材料が揃ったんだから次は
完成したお薬も実験対象が必要でしょ？」

「そ、それは…」

「ふふっ、凄く良く、効く、お薬らしいから楽しみだわぁ♡」



























































































































